

【通信欄】

昭和43年度大学院卒業論文一覧（気象学関係）

最近日本気象学会において大学院学生の占める比重が大きくなりつつあることは、たとえば大会発表、気象集誌掲載論文などをみても明らかであります。しかし各大学が日本各地に分散していることもあって、研究内容に関する情報の流通が不完全な面もあろうかと考えられます。それでこのたび『天気』では新しい試みとして各年度毎にそれぞれの大学院での気象学関係の卒業論文リストをまとめて公表し、大学間のみならずひろく気象学会全体に相互の関心を深めていただくための手がかりにしたいと考えております。

もしも調査不十分のため、掲載もれがありましたら御通知いただきたいと思います。（天気編集委員会）

以下、いずれも新制大学院理学系研究科、氏名（大学、課程名）、論文題目、発表雑誌名の順。

博士論文

- 鈴木重尚（北大，地球物理）
氷の再結晶の研究。
低温科学投稿予定
- 丸山健人（東大，地球物理）
Study of large-scale wave disturbances in the equatorial lower stratosphere.
三部に分け気象集誌に印刷済
- 福岡義隆（東教大，地理）
Influence of rain-water and soil-moisture on the earth temperature variation and heat balance at the ground surface.
地理評投稿予定
- 小林望（東教大，地理）
Upper air climatology along the east and west coasts in the middle latitudes.
気象集誌投稿予定
- 山下修二（東教大，地理）
大気汚染による日射量減少の都市気候学的研究。
地理評投稿予定
- 石川勲（東北大，地理）
河川水温の日変化。
Sci. Rep. Tohoku Univ. (Geography) Vol. 19, No. 2 発表予定
- 菊地立（東北大，地理）
本州北半における冬季降水量の変動について。
Sci. Rep. Tohoku Univ. (Geography) Vol. 19, No. 2 発表予定
- 高橋忠司（東大，地球物理）
Freezing of supercooled water drops.
二部に分け気象集誌に投稿中
- 時岡達志（東大，地球物理）
The study of the rotating fluid.
前半は気象集誌6月号印刷予定，後半は同投稿予定
- 林良一（東大，地球物理）
Vertical propagation of large-scale waves over the equatorial region.
前半は気象集誌6月号印刷予定，後半は同投稿予定

修士論文

- 佐藤尚之（北大，物理）
- 近藤洋輝（東大，地球物理）

- A linear stability of convective motion in a thermally unstable layer above a stable layer.
気象集誌投稿中
- 岩嶋樹也(京大, 地球物理)
Planetary wave の力学的不安定.
未発表
 - 福田正巳(東大, 地理)
周氷河地形と岩石物性.
未発表
 - 中筋勲(京大, 地球物理)
Shear flow 内の熱対流に関する数値的研究.
未発表
 - 枝川尚資(東教大, 地理)
海風および反対風の研究—湘南地域の海風を例として—
未発表
 - 萩本洋(京大, 地球物理)
豪雨時の降雨セルについて.
未発表
 - 菅沼繁(東教大, 地理)
湘南地域の海陸風—海風の侵入に伴う気象要素の変化—
未発表
 - 浅野正二(東北大, 地球物理)
Radiative characteristics of water clouds in the infrared region.
J. atmos. Sci. 投稿予定
 - 長谷美達雄(名大, 地球科学第二類)
降水を伴う雲の電氣的性質による分類と雨滴の電荷発生機構としての海塩核の電荷.
未発表
 - 石井哲雄(東北大, 地球物理)
Dynamical model of the diurnal variation of the atmosphere.
未発表
 - 奥平文雄(名大, 地球科学第二類)
雪渓の構造氷河学的研究.
未発表
 - 内藤勲(東北大, 地球物理)
接地気層における乱流観測.
未発表

一以上一 (廣田 勇)

気象集誌への論文投稿に関する注意

気象集誌46巻2号(1968)に“Relationship between radar-detected maritime precipitation and satellite viewed cloud cover”(原稿受理1967年10月9日)と題する論文を Drs. S.M. Serebreny and R.H. Blackmer Jr. が発表された。残念なことに同著者は同じ論文を米国気象学会誌 Journal of Applied Meteorology Vol. 7, No. 1 に“Analysis of maritime precipitation using radar data and satellite cloud photographs”(原稿受理1967年10月2日)と題して発表されていた。

多くの学術雑誌の投稿規定と同様に気象集誌においても未発表の原著論文のみを発表することは常識である。従って編集委員会では上記のことを放置しておくことはできないので、米国気象学会にも連絡して本人に厳重注

意をうながした。その結果本人から投稿規定を無視して同じ論文を2ヶ所に同時に投稿したことについて深くお詫びをするという返事がきた。そして論文を集誌に投稿したいきさつを次のように述べている。1) 最初太平洋学術会議に出す予定だったが、出席できなくなり、気象集誌に出すことを示唆された。2) 日本語に訳されると思った。3) 同時に英語の雑誌にも発表したかった。

論文の originarity は特に重要であり、使用している言葉の種類にはかかわりなく同一内容のものは同一論文として取扱うものであることを明らかにして、再び同じ間違いを生じないために注意を喚起しておきたいと思う。

気象集誌編集委員会